

産業社会と人間

総合学科を設置している高等学校で原則必ず履修しなければならない科目に「産業社会と人間」があります。この科目は、人間としての生き方の探求、特に自己の生き方の探求を通して、職業を選択し、決定する場合に必要な能力と態度を養うとともに、将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーション能力を培うことや現実の社会やその中で自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成することをねらいとしています。

この「産業社会と人間」の授業をどのように指導するかについては、①職業と生活、②我が国の産業と社会の変化、③進路と自己実現の3項目で構成し、望ましい勤労観・職業観の育成、我が国の産業の発展とそれがもたらした社会変化についての考察、自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成など対応させながら指導していくことが大切であるとされています。

今日(9月12日)1年生は「産業社会と人間」の授業で発表会を行いました。“邇摩高校に入学して”というテーマで、系列選択をどう考え将来の夢や職業選択に向かってどのように取り組んでいくか、そしてその将来の夢や目標の実現のためにどのような力や能力を今後身につけたいか・・・、といった内容の発表でした。

「将来は介護福祉士になって高齢者・障害者福祉施設で働くことを目標に資格を取ったり、福祉系列での学びをしっかりとやっていきたい。」

「ビジネス系列を選択し、将来はイベントの企画・運営に関する仕事がしたい。そのために、パソコンの使い方や、人との接し方、正しい敬語をこれからきちんと身につけたい。」

「将来は農業に関わる仕事がしたくて、他の学校と邇摩高校を比較して、総合学科の農業系列のような少数の学びが自分にあっていると感じ、邇摩高校を選んだ。将来は進学して農業に関する技能を身につけて農業に関係する仕事を選びたい。」

発表することに慣れていない生徒、抵抗感がある生徒がほとんどだったと思いますが、自作の原稿をもとに生徒一人ひとりが前に出て皆に伝えようとしていました。発表者には『伝えること』を意識してほしいこと、聴衆者には『応援すること』を意識してほしいと説明があり、発表会は進んでいきました。はじめ緊張した面持ちで出てきた発表者が、発表後ホッとした様子で笑みを浮かべて自席に戻っていく姿が印象的でした。後期から始まるそれぞれの系列での授業を中心に、職業人・社会人としての確かな技能を身につけた大人として成長してほしいと願っています。

